

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
川崎記念	2019/1/30	JpnI	川崎	2100m	ミドルベース	良	展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ポッドジョイ	牡7	57	橋崎	マーベラスサンデー	サンデー系	Jade Robbery	ミスプロ系	D	C	D	D	D	D		
2	2	ケイティブレイブ	牡6	57	福永	アドマイヤマックス	サンデー系	サクラローレル	ナスルーラ系	A	B	A	A	A	B	◎	
3	3	アサクサポイント	セ11	57	高松	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	C	D	D	D	D		
4	4	コパノチャーリー	牡7	57	森	アグネスデジタル	ミスプロ系	ティンバーカントリー	ミスプロ系	C	A	D	D	C	C		
5	5	アポロケンタッキー	牡8	57	戸崎	Langfuhr	ノーザン系	Gone West	ミスプロ系	C	B	B	C	C	C		
6	6	ミツバ	牡7	57	和田	カネヒキリ	サンデー系	コマンダーインチーフ	ノーザン系	B	B	B	B	B	B	○	
	7	カガノカリスマ	牡7	57	渡辺	ロージズインメイ	ヘイロー系	ブライアンスタイル	ロベルト系	D	C	D	D	D	D		
7	8	オールブラッシュ	牡7	57	田辺	ウォーエンブレム	ミスプロ系	Crafty Prospector	ミスプロ系	B	A	B	B	B	B	▲	
	9	サルサディオネ	牝5	55	丸山	ゴールドアリュール	サンデー系	リンドシェーパー	ネイティヴダンサー系	C	C	C	C	C	C		
8	10	ツィンクルソード	セ8	57	瀧川	デュランダル	サンデー系	Lyphard	ノーザン系	D	B	D	D	D	D		
	11	コスモマイギフト	牡10	57	大原	アツミラーレ	サンデー系	スピニングワールド	ノーザン系	D	C	D	D	D	D		

隊列図	見解	ラップタイム
コパノ サルサ ケイテ ミツバ アポロ オール アサク ツィン ポッド カガノ コスモ ミドルベース	<p>J R A 勢に世代レベルの高い4歳勢がいなければ、地方勢にもヒガシウィルウィン、モジアナフレイバー、ターピランス、ヤマノファイトらの名前がなく、非常に寂しい顔ぶれとなった今年の川崎記念。メンバー的には面白味がないものの、「メンバーが面白い=馬券的妙味がある」わけでもない、このメンバーでどういう結末になるのかをしっかりと考えていきたい。カギを握るのは展開だろう。J R A 勢をザッと見渡すと、ケイティブレイブ=昨年の川崎記念で逃げ切り勝ち、コパノチャーリー=揉まれ弱くて逃げてナンボ、アポロケンタッキー=被されずの先行策がベスト、ミツバ=地方ダートグレードではほぼ積極策&和田騎手、オールブラッシュ=2年前の川崎機記念で逃げ切り勝ち、サルサディオネ=番手OKも逃げる形がベスト、と6頭すべてが積極策を打ちたいor早めに動きたい馬たち。川崎2100mはそもそもロングスパート戦からの消耗戦になりやすいコースでもあり、ここは究極のポテンシャル勝負になるのではないかな。決して単調なレースにはならないだろう。それでは予想にいきましょう。ここは妙味を考えると、馬連1点で当てたい。</p> <p>本命はケイティブレイブが力の違いを見せつける。(以下省略)</p>	<p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ポッドジョイ		B1、B2で歯が立たない馬。参加するだけだろう。		
2	2	ケイティブレイブ	◎	18年シーズンに入ってから成績が安定し、適性外のフェブラリーステークス、馬体重が重かったチャンピオンズカップを除けば、【4.1.1.0】の安定感。今回はゴールドドリームはもちろん、世代レベルの高い4歳勢さえ不在なので、さすがに負けられない戦いだろう。		
3	3	アサクサポイント		前走北國王冠を圧勝したが、2走前の日本テレビ盃では勝ち馬ケイティブレイブから5.1秒も離されての8着。ダートグレードでは荷が重過ぎる。		
4	4	コパノチャーリー		鞍上の森騎手は不気味だが、地方ダートグレードは現実的に【0.0.0.5】。単騎逃げで行けても後続勢が早めに動くはずで、逃げ粘るのは難しいだろう。		
5	5	アポロケンタッキー		前走東京大賞典は単独2番手で楽に運べたが、直線入り口で早々とギブアップ。馬自身に走る気力がなくなっている印象。中途半端に人気を集めるならバツサリと切りたい。		
6	6	ミツバ	○	ややムラ駆けの印象はあるものの、地方ダートグレードでは安定した成績を残しており、このメンバー、舞台設定なら大崩れしないだろう。コパノチャーリー、アポロケンタッキー、サルサディオオーネは自分の型にハマるかハマらないかの両極端な馬。自在性の高い本馬ならレースを優位に進められる。		
	7	カガノカリスマ		スタミナ豊富なロージズインメイ産駒だが、昨年日本テレビ盃では勝ち馬ケイティブレイブから5.5秒も離されての9着。ダートグレードで通用する器ではない。		
7	8	オールブラッシュ	▲	前走浦和記念はこれまでのうっ憤を晴らす素晴らしい勝ちっぷり。現在は淡々と逃げるよりもオンとオフを利かして終盤に一気に動くスタイルが合っているのだろう。今回も継続して田辺騎手が騎乗。この手のタイプとは手が合っており、今回も仕掛けどころひとつで見せ場以上があってもいい。		
	9	サルサディオオーネ		牝馬限定のダートグレードはレベルが非常に低く、C1のマルカンセンサーでも好走できてしまうほど。牡馬混合のダートグレードでは自分の形に持ち込めても能力不足が露呈するはず。		
8	10	ツインクルソード		地方に転入後、苦戦続き。そもそもダート適性がないのでは。		
	11	コスモマイギフト		昨年の浦和記念では勝ち馬オールブラッシュから10秒以上も負けている馬。参加するだけだろう。		